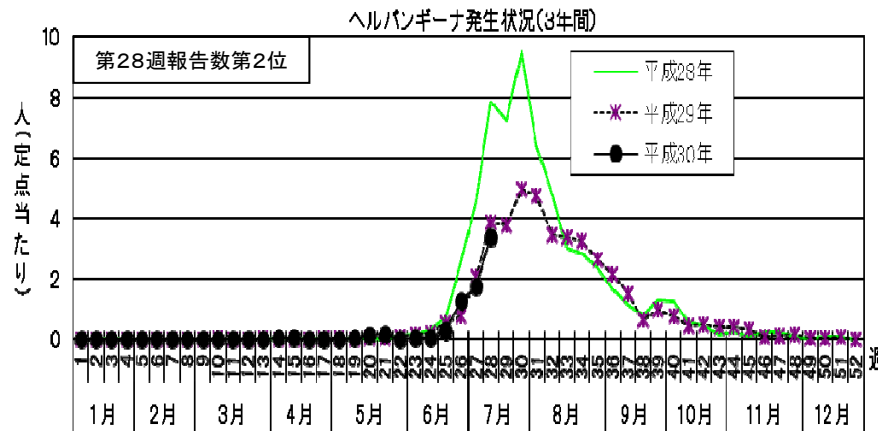
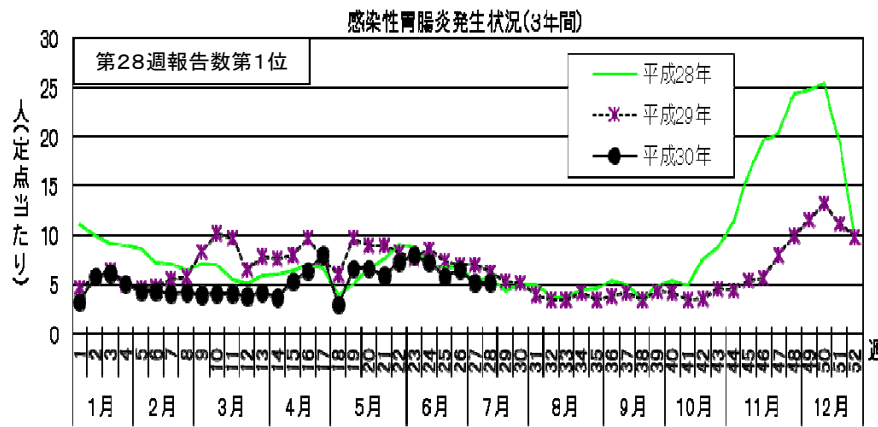


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年7月9日（月）～平成30年7月15日（日）〔平成30年第28週〕の感染症発生状況

第28週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) ヘルパンギーナ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.11人と前週（5.11人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は3.38人と前週（1.76人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.32人と前週（3.49人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



百日咳の報告地域が拡大しています！

百日咳は、特有のけいれん性の咳発作を特徴とする急性気道感染症です。市内では平成30年第23週（6月4日～6月10日）以降、中原区、高津区からの報告が中心でしたが、第26週（6月25日～7月1日）以降、他の地域からも報告されるようになり、20歳未満が80%を占めていました。全国においても平成30年第1週から第16週までの報告のうち20歳未満は66%と多く、6か月未満児の推定感染経路は両親が46%を占めていました。成人では症状が典型的ではないため、病院への受診や診断が遅れることもあり、ワクチン未接種の乳児への感染源となりますので御注意ください。

百日咳とは？

- ◆**感染経路** 百日咳菌の飛沫・接触感染
- ◆**潜伏期間** おおむね7～10日間
- ◆**症状** 臨床経過は3期に分けられます。

カタル期（約2週間持続）

かぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。

痙咳期（2～3週間持続）

短い咳が連続的に起こり（スタッカート）、続いて、息を吸う時に笛の音のような音が出る（笛声）咳発作がみられる。

回復期（2、3週間～）

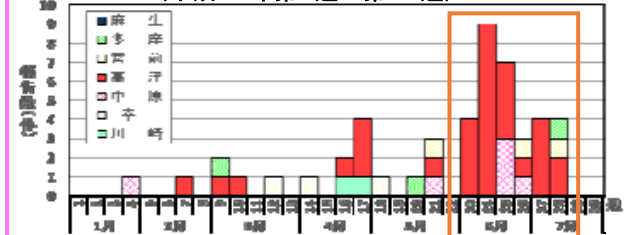
激しい発作は次第に減衰し、2～3週間で認められなくなる。

※免疫が不十分な1歳以下（特に6か月未満）の乳児が感染すると、死に至る危険性があります。

- ◆**予防方法** 百日咳含有ワクチンの接種



川崎市における百日咳区別発生状況
 (平成30年第1週～第28週)



全国における6か月未満症例の百日咳
 推定感染経路別発生状況(平成30年第1週～第16週)

	患者数	割合
母親	11人	23%
父親	11人	23%
同胞	15人	32%
祖父母	2人	4%
その他	6人	13%
不明	15人	32%

両親や同胞(兄弟)からの感染が多くなっています。

(n=47)

重複あり

